

療護施設職員リレーエッセイ

みんなに伝えたい

「利用者本位」とは何か



田原 豊治
福岡県・大地の森

「大地の森」という名の身体障害者療護施設に勤務して8年目になります。以前は知的障害の施設で指導員をしておりました。大地の森に勤務して率直な感想は「厳しい」と思いました。

「厳しい」=食事も、入浴も、排泄も全部、厳しくて大変でした。悲しい事に、知的障害施設の経験は全く役に立ちませんでした。「知的と身障、そんなに変わらんやろう」と思ってたんです。甘かった。非常に甘かったです。食事は介助が当たり前、誤嚥にビクビク。入浴は更衣から洗体介助が当たり前、転倒させないようにビクビク、排泄はオムツ使用が当たり前、いかにオムツから便座に移行させるかで日々検討の毎日。そんな中、手さぐりとはったりの1年が過ぎ、なんとかこなせるようになった2年が過ぎ、なんとなく慣れてきた3年が過ぎた頃に、1つの疑問が湧いてきました。「利用者はどう思っているんだろう?」と。

療護施設で働くようになって、よく(よくでもないか、たまにね)考える事があります。それは入所利用者が、施設で暮らす(生活する)ことについて、どんなふうに思って、何を感じているんやかと考えるようになりました。施設で生活している「利用者の価値観」と施設で働いている「施設職員の価値観」はどのくらい違うのだろうか?

「利用者本位」という言葉があります。「利用者本位」とはどういうことなのでしょう?利用者の言うことを全て聞き入れる事が「利用者本位」なのでしょう?施設という集団生活の場で、そのような事が可能なのでしょうか?正解の答えがあるとは思いませんが、考えていけないといけないことと思います。

療護施設でありがちな風景に「リハビリ、リハビリ頑張って」というセリフがあります。施設職員が利用者に言うセリフですが、場面的には食堂に向かう廊下であったり、トイレに向かっているときであったりします。施設職員の見解では「何事も自分で

できていることは自分でやんなさい」という事でしょう。

が、これほど利用者の気持ちを無視した言葉はないのではないのでしょうか?利用者はこのとき、どんな気持ちで受け止めているのでしょうか?「何でアンタに言われなにかんと」とは思っていないのでしょうか??以前、こんな作文を読んだことがあります。

「僕は生まれつきの脳性マヒで体が思うように動きません。寮母さんはすぐ、リハビリだから頑張っていて、と言ってなんにもしてくれません。僕はいつも夜寝るとき、目が覚めたら死んでますように、とお願いをして寝ます」。

衝撃を受けました。ショックでした。利用者は、常に頑張っているんだ、という事に気づきました。

我々職員は、朝出勤して夕方帰ります。しかし、利用者は24時間、コンクリートの建物にいます。消灯してしまうと、あとは夜勤の施設職員しかいません。全介助の方が中心の時間帯となり、少しでも動ける利用者にとっては、試練の夜となるのです。そう気づいたとき、せめて出勤している時間ぐらいいは、全介助でも半介助でも、全部の車椅子は押そうと心掛けました。

「利用者本位」とは、その生きかた・ライフスタイルを尊重し、楽になるように援助してやることではないのでしょうか?

この世界に入って17年になりますが、まだまだ分かっておりません。これからも勉強し、頑張らねばと痛切に感じる日々です。いつになったら「卒業」できるやら?

まだまだまだまだでしょう。悲しいかな?嬉しいかな???